

5月チャプレンだより

「心に残る情景」

新学期を迎えたある小学校の授業参観日での出来事です。この日は、生徒一人一人が、「夏休みの思い出」と題して、作文を朗読することになっていました。夏休みに海水浴に行ったこと。祖父母のいる田舎で魚釣りをしたこと。家族で海外旅行に出かけたこと。林間学校やキャンプに行ったこと。ディズニーランドで、朝から晩まで遊んだことなど、子ども達の口から、楽しい思い出が次ぎから次ぎへと語られました。そしていよいよ最後の男の子の番になりました。

「僕の家族は、僕とお母さんの二人です。お母さんは、近くの町工場から家に部品を届けてもらって、一個何十円の部品組み立ての仕事をしています。お母さんは、毎日、朝から晩まで、働いているので、この夏休み、僕たち家族は、どこにも出かけることはありませんでした。そのような僕たち家族にも決して忘れられない思い出があります。

それは、ある日の夕暮れ、僕が縁側から外を見ていると、真っ赤な夕日が見えました。それは今まで見たこともない、息を飲むほど美しい夕日でした。僕は、その夕日を働いているお母さんにぜひ見せたくて、お母さんの所に行くと『お母さん、夕日がすごくきれいだよ。早く来て、早く来て』と言いました。するとお母さんは、『今、あと、もう一つだけだから。これが終わったらすぐ行くから。待ってて』っていいました。やがて仕事を終えたお母さんが縁側にやってきました。一日の労働で疲れた手をそっと僕の肩において、二人で一緒に夕日を見ました。その夕日を見ながらお母さんが一言「きれいだね」っていいました。僕たちは、その夕日をいつまでもいつまでも見つめていました。」

わたしたちには、決して忘れることの出来ない「心に残る情景」があります。それは、決してお金で買えるものではありません。愛する者とだけ分かち合うことの出来る情景です。たとえディズニーランドや海外旅行へ行けなくても、愛する者が近くにいる、分かち合うものがあれば、私たちは、幸せなのではないでしょうか。

2023年4月28日

石川三育保育園チャプレン 北 睦夫